

心臓マッサージ評価機器「しんのすけくん」を豊後高田市に寄贈

住友理工株式会社（本社：名古屋市中村区、代表取締役 社長兼 COO：松井徹）は8月26日（金）、心肺蘇生法（心臓マッサージ）の訓練をサポートする胸骨圧迫 訓練評価システム「しんのすけくん」を大分県豊後高田市に寄贈しましたので、お知らせいたします。同市には当社グループの株式会社住理工大分 AE、株式会社住理工九州、株式会社東海化成九州の3社が立地しており、グループ会社が所在する自治体への寄贈は今回が初めてです。



社長 松井（左）からしんのすけくんを受け取る永松市長



しんのすけくんを使った訓練を体験する永松市長

「しんのすけくん」は、当社開発の圧力検知センサー「スマートラバー（SR）センサ」を応用し、心臓マッサージの訓練において重要な要素である圧迫位置、圧迫の深さ、リズムなどを検知、リアルタイムで表示される画面を見ながら、訓練を受けられる製品です。要素ごとに得点化し、客観的に評価することにより、訓練の質の向上を図ります。

豊後高田市役所で行った寄贈式には、同市の永松博文市長や同市消防本部の榎本久光消防長、当社側からは社長 松井のほか、住理工大分 AE 前代表取締役 社長で、当社取締役 専務執行役員 大橋武弘らが出席。消防本部の職員による本製品を使ったデモの実演に続き、永松市長が心臓マッサージを体験した後、社長 松井がしんのすけくん1台を永松市長に手渡しました。

社長 松井は「しんのすけくんの活用を通じて、心肺蘇生が正しく行える人材の裾野の拡大に貢献したい」とあいさつ。永松市長は「『健康のまちづくり』を掲げて一生懸命取り組んでいる中、しんのすけくんをいただき、大変ありがたい。正しく心肺蘇生が行える人材の養成に役立てていきたい」と話しました。同市は今後、同市消防本部の職員の訓練や教育現場での講習などに活用するとのことでした。

当社は本製品のさらなる普及に努め、万が一の時にも正しく心肺蘇生が行える人材の裾野を広げることで、「安全・安心・快適」な暮らしづくりを目指してまいります。

以上

※「SR Soft Vision」「スマートラバー」および「しんのすけくん」は、住友理工の登録商標です。